

取組の背景

平成28年8月の台風により当署管内において激しい山地崩壊・溪流荒廃が発生しました。被害調査に当たっては、局によるヘリコプター調査に加え、当署として被災箇所毎にドローンによる撮影を行ったところです。今回、この台風災害におけるドローンの活用事例を紹介するとともに、これらの活用の中で気がついた業務への活用の可能性について報告します。



取組の内容

台風被害調査の事例

ドローンの使用により段階的に調査範囲の絞り込みを行うことで効率的な把握が可能

①被害状況を広範囲で把握



ヘリコプターによる撮影

②被災箇所毎に撮影



ドローンによる撮影

③現地調査



現地での撮影

各種業務における活用の可能性

署における日常の現場業務については、現地調査をする前に活用することで効率的に情報収集が可能

①林況調査

従来の航空写真に比べ最新の現地情報を把握することで、最適な調査プロットの位置を効率的に選定。



林況状況とプロット予定位置

②現況把握

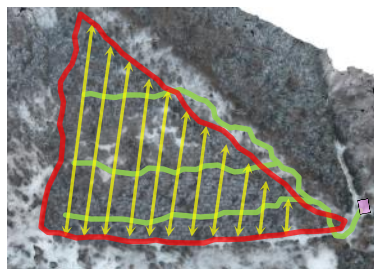
請負事業実行箇所において、伐採・路網配置等の事業進行管理の把握が効率化。



小面積皆伐実行箇所

③間伐調査

事前に調査箇所を3D化することにより、伐採方向や路網配置の検討を行い、効率的に森林施業を行う。



伐採方向と路網配置

④事業説明

地域や関係機関等への事業説明において、フォトスキャンによる3D化技術を駆使することにより解りやすく現状を伝えることが可能。



南富良野町役場へ事業説明

今後の展開

広大な国有林を管理するためには、各種調査・巡視業務の効率化に有効なツールとして、職員がドローンを日頃から身近な存在として、活用出来ることが望まれるところです。

今後、ドローンを活用する機会を増やし、技術を高めていくことで、国有林の更なる「見える化」を図っていきたいと考えています。